



充実した富士山学習の実践！



富士山科学研究所三浦先生の授業

各校で、富士山学習に取り組んでるところですが、工夫した取り組みとして、富士山科学研究所と連携した授業も行われています。10月25日には大石小で、「富士山の形と成り立ち」という授業が行われました。はじめに、どこから見ても同じように見える富士山は、場所によって見える姿が違うということを、5枚の写真を使って、どの方向からの富士山か当てる問題形式でやりました。(ここまでは担任)、後半は、富士山科学研究所の三浦先生から、なぜ、見え方が違うのかをスライドを使って説明していただき、姿の違いは、成り立ちが関係していることを学びました。授業で使った資料の多くは、富士山科学研究所で用意されたものです。

11月1日の「ほりぬきがひらいた未来」では、河口湖新倉堀抜の資料から、わかったことや疑問を出し合い、本時の学習問題「河口湖新倉堀抜はなぜ作られたのだろう」に迫るため、富士山科学研究所の三浦先生から富士山の周りの地理的条件を学びました。この授業で、河口湖新倉堀抜が作られた理由には富士山が大きくかかわっていることに子どもたちは気づいていきました。

このように、富士山科学研究所と連携して行う授業は、西浜小(11/8)、大嵐小(11/14)、富士豊茂小(11/16)河口小(未定)でも行われます。富士山科学研究所の基本プログラムには、「富士山の自然」「火山としての富士山」「富士山の水」「富士山の動植物」があります。河口湖フィールドセンターでは、自然の恵みを体感することができます。また、信仰・歴史・芸術等については、富士山世界遺産センターの教育プログラムがあります。船津小では、河口湖新倉堀抜の学習で生涯学習課の杉本さんに指導していただきました。(写真)



杉本悠樹さん
(文化財係学芸員)

関係機関を多くの学校で活用しています。今後も富士山学習の充実に向けて活用していきたいものです。

富士山学習充実のために 第3回研究会開催

10月25日に行われた第3回研究会の概略は次のようです。

- 1 「富士山アンケートのまとめと考察」…①富士山のことをどう思っているかについて、「好き」が小学生に比べて中学生が少ない理由は、観光客増加に伴う交通渋滞や観光客のマナー不足による迷惑や噴火による怖さなどによるのではないかと。②富士山が自然遺産であると誤って答えたのは、小学生で13%、中学生で29%であり、指導の必要がある。③富士山世界遺産の構成資産・構成要素に行ったことがあるかについては、実際より低い値になっていると思われるので、授業で行った場合は、構成資産・構成要素であることを結び付けて指導する必要がある。など出されました。
- 2 センター学習体験プログラムの状況について、確認がなされました。特に、「新倉堀抜学習」は今年度より始まったので、プログラム改善のため実施学年担任に、実施後アンケートをお願いいたします。
- 3 富士宮市富士山学習発表会は、今年度は会場の関係で中学校区ごと、11月19日前後に開催されます。富士山研究会では、19日に参加する予定です。多くの先生方の参加をお願いいたします。

